

山口暁先生を偲んで



cl

12

12⁺
7/2

S. Yamaguchi



お若い頃の山口暁氏



竹本・山口・Duflo御夫妻（熊本城）



山口・竹本・Duflo御夫妻（阿蘇山）



関数解析・実関合同シンポジウム（福岡大・1980）



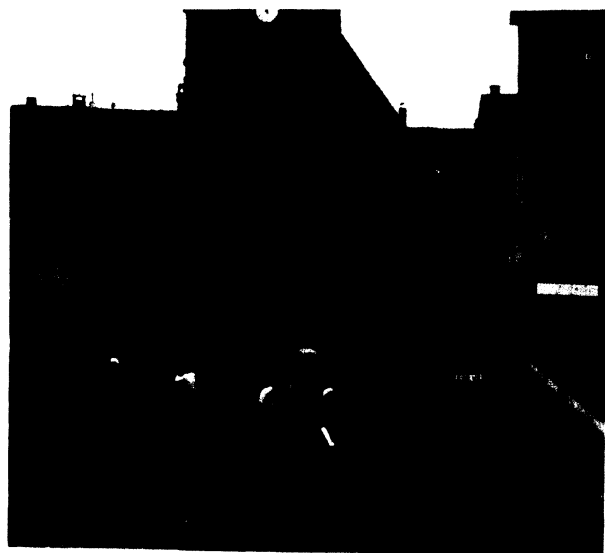
レストラン風月の前で



準備委員としてはりきる山口先生



京大シンポジウム（北白川・1982.7）



平井・山口氏（リックヴィル・1979）



Cathédral 上で（パリ郊外・1979）



山口・土川・橋爪・大豆生田・安藤氏
（パリ郊外・1979）



山口・Dutlo氏（パリ・1979）



大豆生田・江口・牟田・山口氏
（Comar・1979）



日仏シンポジウム（ストラズブール，1979）



山口・新屋氏（パリⅣ大・一九七九）



パリ郊外で（一九七九）

藤原様。毎日朝刊の corner に世界各地の主要都市の気温と、その地の主要新聞の top news と知らせる新聞があるのだから、それを見るに Paris は寒そうである。こちでも 1 月 ~~20~~ 20 日頃より本格的に寒くなりました。先日の letter では (荷になるだけだ"と思") preprint の Revised 版ものは送らないと書きました。この年紙と共に 2 封書します。

France でお話をうかがったところでは 3 月には帰国したい"と云う御希望があったと思います。2 月は ~~逃~~ 1 月 23 日頃とかで、意外あつたように 3 月が来そうです。帰国されてからの宿舎のことは気にあってこの letter を書いていたのだから、昨年の終り頃公務員宿舎の希望調査の紙が来わつて来たのを見るとやはり空(アキ)があつた様に思います。兄の場合一応 9 月まで研修と成つて居りますので、その真早目に入居希望を提出出来るのかどうか 聞いてみたい"とわがやらないのだから、やってみよう"と行くものなら(兄が希望され、少々辺りこ"と"ころでもよいとお考えなら)と思つてこの年紙を書き次です。中断

あ"ま"い"な"ことを書くよりも思"、今鬼武さんに話していつたところ、

- ① 帰国してからのことと牛競走出来る、② 兄の場合あけていつても多分たのだから優先権がある(1) 解の中神々の場合(2) 一(国)内ではいいこと) ③ 現在(先に述べた要素に)比較的にあ"ま"い"るから簡単に入れるであらう(この真が完全を保障するであ"ま"い"のか"一寸気掛りであ"ま"い"る)とのことでした。修学やんが 1 所処の小学校に入るか兄も気掛りであ"ま"い"ると思"ます。老爺心からつま"ま"い"ることを書きましたが、上記の事を事情であるので研究費-に励まされよう。来華をがう案様によろしくお伝え下さい。

1 月 22 日 晝休み。

山に

1 月 22 日

P.S. 科研費の計算や配分、何處でもうまく行かぬ、見かねた家内が牛位作(セ"ン"ウ"リ"一"作)してくれ、それが 20 年間の家計簿。とつけて来たのであつたので云う向に片付けてしま"ま"い"た。又一つ頭の上には材料が来"ま"い"た。

山口さんの思い出

杉浦 光夫

山口先生に初めてお目に掛かったのは、多分1953年~54年の頃だったと記憶する。その頃私は学会の折りに全国の若手研究者が集って語り合う会をしていたので、そのような会合でお会いしたのだったと思う。いつのまにか既に三十年の月日がたってしまった。

一年に一度か二度お会いするだけだったが、その風格あるお人柄は印象に残っている。

山口さんは、また私に対してもいろいろ好意を示して下さいました。1962年に私が長い間助手をしていた東大から、阪大に移ったとき、早速集中講義に招いて下さったことがあった。このときは驛まで出迎えて下さり、大学の宿舎に泊まれるよう手配して下さいました。また講義中の一日の午後、学部長の車で、福岡を案内して下さいました。この年は、球函数論を講義したが、数年前にもう一度集中講義をするようにと言って下さったので、夷単純リー環の分類の話をした。どちらの場合も山口さんは、講義を全部聞いて下さった。二度目の時であったが、やりかけた定理の証明をやってしまおうと、三十分以

上延長して話をしていると、誰かが扉の所でのぞいていたことがあった。後で聞いてみると外国人数学者の話がその部屋であることになって居て、時間が迫って来たので心配になった人が見に来たとのことであった。そんな時でも山口さんは落着いてこちらの講義が予定通り進むまで見守って下さったのである。

現在でもリー群や表現論のためのポストが乏しいのは残念なことであるが、山口さんが藤原君を助手に招いて、研究の場を与えて下さったことは、藤原君個人のみにならず、表現論グループとしても大いに感謝すべきことであった。

鳥取でのシンポジウムの時、山口さんと藤原君を交えて語り合ったことは今となってはなつかしい思い出となった。

山口さんが世話をして下さった北九州の茅刈山荘でのシンポジウムも楽しい集いであった。この外、山口さんは科研費の分担者もされた。特に1980年には、毎年一回のシンポジウムの外に、対称空間上の調和解析を主題にして、職業訓練大でシンポジウムを開いたが、そのための資金についても、山口さんはお世話をして下さった。

こうして山口さんには、表現論グループはすい分お世話になったわけである。このような場合に、山口さんは適確な判断によって、仕事を進められたが、いっとも控目にして居られ

功を誇るような所は一切見せられなかった。

誠に惜しい方であり、残念なことであった。実を言うと私は、山口さんともう二度とお話し出来ないのだけれどということが仲々実感できないでいるのである。けれどもそれはもはや既定の事実であり、私共はそれを受入れるしかない。

謹んで御冥福を祈りたい。

山口 暁さんのこと

広島大学総合科学部 江口 正晃

一昨年 1981 年の秋、山口大学教育学部教授として九州大学から山口大学に移られてからやっと 1 年を経たばかりの昨年 12 月 2 日午後 7 時 20 分ごろ、大学で学生とのセミナーを終え小郷市の自宅へ帰宅路上道路横断中をトラックにはねられ重傷を負い、意識不明のままとうとう同 16 日には不帰の客となってしまいました。急を聞いて病院へ駆け付けた時にはもう自分の力では呼吸が出来なく、人工呼吸の機械がシューツ、シューツと音をたてて動き、弱り果てた山口さんの胸を大きくふくらませているだけでした。事故の後、当日は痛そうな表情や手足の動きもされたりしいのですが、私が訪ねた時にはもう何の反応も示されず、最近ずっと体調を悪くして痩せられた体にはあちこち傷の治療の絆創膏がいっそう痛ましく感じられました。高校時代には野球をやり、数学教室のソフトボール大会の時こそ豪速球を投げておられた面影はもうなく、その衰れたお姿を見ていますと事故を起した

運転者への怒りと御家族の御心配を思い、どうしても涙をこらえることが出来ませんでした。

私が学部4年・修士の頃、現九州工大教授の上杉利種氏と共に幾何学講座の助手として在学中であり、ポントリャーギンの“連続群論”や Helgason 著の “Differential Geometry and Symmetric Spaces” を使ったセミナーの指導をして頂き、特に理解の遅い私共に根気よく付き合ってくれたことや、あの小じんまりとした円味のある独特な字で（氏が数年前科研のお世話となった時手紙を受け取られた方はきっと思い出されることでしょう）板書し解説を加えて下さった事などが、まるで昨日のことの様に思い出されます。これらのセミナーのテーマや、表現論入門の講義はその後私が対称空間上の調和解析の研究へ進んで行く上で大きな指針となったことは言うまでもありません。

この当時は無限次元リー群の構造について興味を持っておられた様で、この頃の研究業績が認められて湯川奨学金を受けられ、大学内外の人達から新進の研究者としてその前途に大きな期待が寄せられていました。もの静かで常に控目な方でしたが、目鏡の奥で鋭く輝く目には迫力があり、時折酒を飲んだ時などに聞かされる数学者としての心構えなどのお説教に大変学ぶ所が多く、影響を受けたものでした。私が修士

を終える年に九大教養部へ移られ、また3年程で理学部助教授として迎えられました。この頃の談話会では保型函数、Selberg の跡公式等の話をされたりしていますのでその方面にも興味を持って居られた様でした。若い研究者仲間では表現論の研究グループをつくり、そのメンバーの一人として研究をされていること、適当な時期に私をそのグループに紹介して下さいと仰言っていたのもこの頃でした。白浜での研究会のこと、岡本さんというすごい方が研究グループには居らっしゃること、今まではまだ表現論は市民権を得てはいないが今後数学の重要な部門の一つになっていくだろうということなどをお聞きしました。

私はその後広島大に移り、はからずもそのすごい方と聞いていた岡本先生と同じ大学で過すことになりましたが、何か山口さんのお導きの様な気もしているのです。広島に移ってから学会やシンポジウムの折位にしかお会い出来ず、お酒の飲み過ぎなどで体調をくずして居られることを知り遠くから気をもんでいたものでした。やりかけた研究のこと、御家族のことなど本当に残念であったことと思いますが、もう病気の心配もなくあなたの世界で好きなお酒を存分に飲んでいらっしゃることでしょうね。

山口暁先生の思い出

九大・理 藤原英徳 (Hidenori Fujiwara)

恩師山口暁先生の突然の死を知らせる義父の声を受話器に遠く響いたのは昨年12月中旬、先生がこよなく愛された Paris の街がクリスマス・ムードに浮かれた頃でした...

「自分は幾何学者です。」 事ある毎に言われてた先生は、最近ラプラシアンのスペクトル、リー群の構造、等質空間上の調和解析等に関して精力的に仕事されておられました。Milner 予想: 「連結・単連結な可解リー群はアファイン構造を許す? 即ち、このような群はある $\mathbb{R}^n$ にアファイン変換群として単純かつ推移的に作用する?」から出発されたアファイン構造に関する御研究では、種々の系列の群に対して肯定的解答を与えられ、関連して、中零リー環や離散部分群の構造研究に進まれておられました。上記 Milner 予想に関しては、中零群に対してはその証明を、又可解群に対してはむしろ反例を捜されておられたような気がします。

幾何学者としての先生はしばしば次の様な問を口にされておられました。「可解群の幾何学は何か?」、「可解群の場合、半単純群に対する対称空間に相当する対象は?」、「リー群というからには変換群ですよ。何らかの幾何学的空間の変換群として実現されるべきでしょう?」 79年秋の日仏ユークで渡仏された機会になされたこれらの質問に対する Duflo 教授の答:「可解群に対しても全然幾何学が無いというわけではなく、 $\mathfrak{g}$ -代数に対する Siegel domain や、co-adjoint 表現の軌道、symplectic geometry etc はその例ですが、只現時点では御質問は少し哲学的・抽象的すぎるように思われます。」先生は更に機会があれば J. Dixmier、M. Berger 両教授にも同様の御質問をなさりたそうな御様子でした。アフィン構造の御仕事もこのような先生にとっては信念実行の一端であったことでしょう。

御若い頃から仏文学に親しみ、「将来は文学をやろうかな?」と思っておられた先生。ギターを爪弾き、クラシック音楽・園藝を趣味とされていた先生。色付き始めたヌワニエの木々の下、一人ベンチで読書を楽しみ、時折感慨に浸っておられた Paris のリュクサンブール公園... 先生が数々の文学作品を通して若人の夢を馳せた地であってみれば、一種懐しさにも似た感情を胸に、Paris の街を徘徊されたに違いあ

りません。後日、Duflo 教授来日の際、数学・音楽等の話題と共に、Paris の思い出話にも花を咲かせておられたものです。

先生は達筆な名文家で、自分の例をよいことに、「およそ数学関係者は字が下手な筆不精者である」とはなほだ他の方々に失礼極まる命題を勝手に証明しつゝあった私にとり、先生の書簡は心憎いばかりの味わいでした。こうして短い拙文をものしていると、今更ながら先生の名文が思い出され、その柔和な風貌が目蓋に、又、最後になった御電話の声と共に以前先生が何かの折に言われた言葉が耳朶に蘇ります「僕はね、死はちっとも怖く無いんですよ。」

先生の御冥福を祈りつゝ・・・

1983 年 10 月 17 日

Mathematical papers of Satoru Yamaguchi

1. On complex parallelisable manifolds, Mem. Sci. Kyushu Univ. Ser. A, 13 (1959), 136-139.
2. On certain zonal spherical functions, Ibid, 17(1963), 131-144.
3. Semi-simplicity in infinite-dimensional Lie groups, Ibid, 17(1963), 164-167.
4. On simple Lie groups of infinite dimension I, Ibid, 18(1964), 1-32.
5. On simple Lie groups of infinite dimension II, Ibid, 33-43.
6. Note on certain simple Lie algebras of infinite dimension, Ibid, 44-49.
7. Supplement to the paper "Semi-simplicity in infinite dimensional Lie groups", Ibid, 168-171.
8. Correction to : "On simple Lie groups of infinite dimension II", Ibid, 19(1965), 105-107.
9. A note on non-connected complex Lie groups, (with K. Honda), Ibid, 27 (1973), 65-67.
10. On two types of differentiable S^1 -free actions on homogeneous spaces of compact simple Lie groups, (with K. Honda), Ibid, 69-78.
11. Spectra of flag manifolds, Ibid, 33(1979), 95-112.
12. On complete affinely flat structures of some solvable Lie groups, Ibid, 209-218.
13. Supplements to "On complete affinely flat structures ..." and an application to nilpotent Lie groups of dimension ≤ 5 , Ibid, 209-218.
14. Derivation and affine structure of some nilpotent Lie algebras, Ibid, 34 (1980), 151-170.
15. Affine structure of some solvable Lie groups, Ibid, 339-345.
16. Affine structures of maximal solvable subalgebras of non-compact semi-simple Lie algebras, (with Y. Takemoto), Ibid, 35(1981), 39-44.
17. On some classes of nilpotent Lie algebras and their automorphism groups, Ibid, 341-351.
18. On the spectra of $SU(3)/T$, Bull. Fac. Ed. Yamaguchi Univ. 32 Pt.2(1982), 1-11.
19. Some remarks on the eigenvalues of the Laplace operators of certain compact simply connected Riemannian manifold, preprint(1982).